

グループホーム藤糸

(別紙6)

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年7月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300677		
法人名	社会福祉法人都賀の里		
事業所名	グループホーム藤糸		
所在地	栃木県下都賀郡都賀町白久保298-5 (電話) 0282-92-0299		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月1日	評価確定日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人 9 人	常勤9人(うち兼務1人), 常勤換算8.5人 常勤9人, 常勤換算9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,200 円	その他の経費(月額)	・管理費—5,800円 ・共益費—8,000円 ・日用品費および事務費—10,000円 ・理美容代、おむつ代—実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 300 円	昼食	300 円
	夕食 400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 慈厚会 船越医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは山あいの自然豊かな場所にあり、フキやタラの芽などの山菜が採れ、食卓に並ぶこともある。敷地内には、デイサービスセンターや知的障害者入所施設があり日常的な交流や行事での交流がある。庭にはベンチやイスをふんだんに置き、外気に触れる機会を積極的に作り、開放感のある生活を支援している。ユニット名の「集」「和」には理事長の思い入れがあり、それぞれの言葉にちなんだ書が額装され掲示されている。協力医療機関にもなっている関係法人の医院に毎朝FAXで入居者のバイタル表などを送信し、医療的なバックアップ体制も整っている。訪問日にも体調を崩した入居者があり、職員が連携し、関係法人の医師と連絡を取りながら迅速な対応をしていた。墓参りなどの個別の外出も支援しており、また、職員は休みの日を使って入居者と一緒に映画を観に行ったりと入居者一人ひとりの思いにそった支援に努めている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価・自己評価を「振り返り」「自己研鑽」の機会としてとらえ、全職員で自己評価に取り組んでいる。廊下に敷いているマットを変えたり、職員の休憩スペースをつくったりと改善に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員個々に実施し、管理者がまとめた上で職員間で話し合いをしてまとめあげた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町の職員にも相談しているが、メンバー選出の関係もあって今までのところ開催できていないが、目処がたち、今年度は開催できる予定である。メンバーは自治会長、老人会長、町職員、地域包括支援センター職員を予定している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>行事や日常の写真をよく使い、ユニットごとに作成している「ほのぼのだより」を毎月家族に送付している。その他に電話で報告したり、特に何かある時には手紙を書いたりしている。預かり金管理は基本的に行っておらず、必要なものは家族に相談のうえ立て替え払いで購入し、利用料と併せて請求している。職員の交代があった時には家族が訪れた時などに紹介している。重要事項説明書にホームおよび町の苦情・相談窓口を明記している。家族が訪れた時などには話しかけ、意見や不満等を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。要望や苦情などを直接言ってもらっており、職員会議などでも話し合いながら改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自然豊かな立地である反面、隣家との距離があるなど日常的に地域の人々との交流が難しい面はあるが、自治会に加入し、地域の花火大会や納涼祭に参加したりしている。老人会からゲートボール等に誘われたこともあった。ボランティアの方が訪れたり、敷地内のデイサービスセンターの利用者との交流などもある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然の中でその人らしく生きいきと生きる」を開設以来の理念としている。また、管理者は職員に、判断に迷った時は家族の一人として何をしたいか考えるように話をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催する職員会議の場や日常の支援の中で管理者が職員に確認をしたりして理念の共有・実践に努めている。職員からは、入居者一人ひとりの違いを大切に、個人個人に常に声をかけ、その人のしたいことを支援することを大切にしている、という声が聞かれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自然豊かな立地である反面、隣家との距離があるなど日常的に地域の人々との交流が難しい面はあるが、自治会に加入し、地域の花火大会や納涼祭に参加したりしている。老人会からゲートボール等に誘われたこともあった。ボランティアの方が訪れたり、敷地内のデイサービスセンターの利用者との交流などもある。	○	地元の保育園との交流やホーム行事としてバザーを企画してみることも検討している。また老人会との関係を深めることなども考えている。運営推進会議などでも相談しながら、当ホームならではの地域との関係づくりを進めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価・自己評価を「振り返り」「自己研鑽」の機会としてとらえ、全職員で自己評価に取り組んでいる。廊下に敷いているマットを変えたり、職員の休憩スペースをつくったりと改善に努めている。今回の自己評価は、職員個々に実施し、管理者がまとめた上で職員間で話し合いをしてまとめあげた。		

グループホーム藤糸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の職員にも相談しているが、メンバー選出の関係もあって今までのところ開催できていないが、目処がたち、今年度は開催できる予定である。メンバーは自治会長、老人会長、町職員、地域包括支援センター職員を予定している。	○	地域とのつながりを深めていくためにも運営推進会議の開催実現を期待したい。また、例えば災害対策など検討テーマによって参加してもらう人に工夫することなどにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、報告・相談をしている。運営推進会議のことなども相談している。町直営の地域包括支援センターには同法人の社会福祉士を派遣している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や日常の写真を多く使い、ユニットごとに作成している「ほのぼのだより」を毎月家族に送付している。その他に電話で報告したり、特に何かある時には手紙を書いたりしている。預かり金管理は基本的に行っておらず、必要なものは家族に相談のうえ立て替え払いで購入し、利用料と併せて請求している。職員の交代があった時には家族が訪れた時などに紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームおよび町の苦情・相談窓口を明記している。家族が訪れた時などには話しかけ、意見や不満等を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。要望や苦情などを直接言ってもらっており、職員会議などでも話し合いながら改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	敷地内にあるデイサービスセンター等との間での異動はあるが、離職は開設以来ほとんどない。敷地内にある事業所間の交流もあり、職員が異動しても関係が全く途切れるということはほとんどない状況になっている。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は交替で参加し、受講後は資料を回覧したり職員会議の際に報告したりして知識の共有に努めている。職員会議の際に、感染症対策等の時々合わせたテーマで話をすることはあるが、勉強会的な時間は特に設けていない。管理者は併設事業所の管理者も兼ねており、一步引いた視点で、職員の気になる対応についてその場で確認したりしている。	○	身体的な介助の度合いが高まってきており、管理者は「介護技術」のレベルアップの必要性も感じている。また計画的に職員育成に取り組みたいとも考えている。入居者との接し方をビデオに撮って職員間で話し合いをするケーススタディにも取り組み始めており、今後更に職員育成を充実させていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会や老人福祉施設協議会に加入し、会議や研修に参加している。ホームの近くに公園があり、他ホームの方に遊びに来てもらうよう声をかけたりしている。管理者は近隣のホームとの間に、より具体的なネットワークを築きたいと考えている。	○	管理者からは他のホームを見学したいという声も聞かれた。近隣のホームとのネットワーク構築を探りながら、質の向上のために他ホームと交流する機会を具現化していくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の段階でグループホームでの生活が良いのか他のサービスの利用が良いのか話し合いをしている。短期利用共同生活介護の指定を受けており、また併設のデイサービス利用からの入居も多く、場に馴染んでからの入居がしやすい体制になっている。入居後は話をよく聞くようにしたり、食卓の座席に配慮したり一人になれる場所を確保したりして入居者間の関係づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら料理の下ごしらえ、おやつ作りなどを一緒にしている。職員は山菜等の料理の仕方を教わったりしており、また入居者からの「ありがとう」の言葉が職員の支えにもなっている。職員は入居者とゆったりとした時間を共有しており、1対1で話をしている場面も多く見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で入居者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は本人や家族から聞いた生活歴などを参考にしたり、職員が家族の立場にたって考えたりしながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意見を聞き、計画作成担当者が介護計画のベースを作り、職員会議で2～3人の入居者を取り上げて、職員の意見を聞きながら検討している。様式なども色々と使ってみており、センター方式のアセスメント作成の協力を家族にお願いしたこともある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回を目安として定期的な見直しをしている。職員会議の際に2～3人の入居者について検討しており、必要に応じて随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けており、関係をつくった上での入居につなげたりもしている。また、墓参りや昔住んでいた所へのドライブなど個人的な要望などにも柔軟に対応している。職員が休みを利用して入居者と映画に出掛けたりと本人の希望をかなえることを大切にしている様子がうかがえる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は関係法人の医院になっており、往診が可能であったり、ホームから毎朝バイタル表をFAXしたりと密接な連携をとっている。従来からのかかりつけ医を受診する場合には、バイタルや食事・水分の摂取状況などを一覧にした状態記録表を家族に持って行ってもらうなど家族と連携しながら適切な医療を受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	継続的な医療処置が必要になった場合の入居の困難性も話しながら、入居の際には家族に「終の棲家」として対応していくことを話しており、職員間でも話をしている。看護師資格を持つ職員がおり、また協力医療機関である関係法人の医師と密接な連携を図っている。訪問日にも体調を崩した入居者に迅速に対応する様子が見られた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、「お国ことば」を交えながら入居者の耳元で話しかけたり、入居者と1対1で寄り添いながら話をしてきた。個人記録などは事務室で保管している。	○	日頃の何気ない入居者と職員の様子をビデオに撮って、職員間で対応について話し合うケーススタディに取り組み始めている。ケアとしての入居者との関わり方を研鑽していくとともに、接し方について定期的に振り返る機会としても、その取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、日課は特にない。訪問日にも居室で過ごされる方がいたり、庭で過ごす方がいたりと自由に過ごしている様子が見られた。墓参りなどの個別的な要望にも応えているが、ホームとしては更に個人個人の要望に応えていきたいと考えている。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	必要な支援をしながら職員も入居者と一緒と同じものを食べている。あらかじめ献立を作るのではなく、入居者の好みを聞きながら、食事ごとに当番の職員が調理をしている。ホームの裏で採れる山菜が食卓に並ぶこともある。調理を一緒にすることは難しくなってきたが、下ごしらえや味見など入居者のできることは一緒に行っている。店屋物をとったり、外食をする機会も定期的に設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16:00ぐらいから17:30ぐらいの時間帯で入浴の支援をしている。入浴の苦手な方にも週に2回ぐらいは入浴してもらえるように働きかけている。入浴剤なども使っている。管理者は就寝前の入浴支援をしたいとも考えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできる範囲での家事（料理の下ごしらえやおやつづくりなど）、書道、折り紙、買い物、外出などの機会をつくっている。訪問日は玄関先で外気に触れながら皆で歌を歌っていた。同法人の知的障害者入所施設のバザーに蔓細工やアクリルタワシなどを出品している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム、デイサービスセンター等の敷地内の建物に囲まれるように庭がある。庭を囲むようにベンチやイス、テーブルが所々に置かれており、訪問日にも外で過ごす入居者の姿が見られた。職員と一緒に買い物に出掛けたりもしている。個別的な要望にもできるだけ応えるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室の掃き出し窓など施錠せず、開放感のある暮らしを支えている。センサーを使っていた時期もあったが、今は職員の見守りで対応している。		

グループホーム藤系

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備の定期点検を実施し、消防署からの定期査察も受けているが、定期的な避難訓練は実施していない。	○	いざという時のために夜間の想定も含めて定期的な避難訓練を行っていくことを期待したい。また運営推進会議の場で地域との連携の可能性を探ったり、当ホームの立地特性を踏まえて敷地内の同法人施設との連携方法を整理しておくことも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人記録に記載しており、その他に医師の指示など必要に応じて食事・水分摂取量、排泄状況、バイタルなどを一覧にした状態記録表に記録して適切な摂取ができるよう支援している。定期的に体重測定をしている。栄養士の資格をもった職員がいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の真中に中庭があり、またリビングの木枠の大きな窓からは庭が望めるようになっており、紫陽花など季節の花木から季節を感じることができる。廊下が広く、ソファなどを置いてリビングの他にも居場所をつくっている。入居者の希望がない時間はテレビをつけていない。音、光も適切に配慮されていた。窓の開け閉めで換気をしたり、消臭効果のあるマットを敷いたりしており、気になるにおいや空気のよどみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は、入居時に「家庭に入居者の居場所を残しておいてください」と話しているため家具等の持ち込みはそれほど多くない。日中は共用部分で過ごす入居者が多い。飾り物などは職員が支援して壁に貼ったりしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。